

令和5年度 公共 シラバス

科目	公共	単位数	2 単位
対象	部・年次	1・2・3 部	1 年次

目標 社会的な見方・考え方を働かせ、現代の諸課題について理解を深め、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる社会の形成者として必要な教養を身につける。

■身につける資質・能力と、到達レベル

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	選択・判断の手掛かりとなる概念や理論、及び倫理、政治、経済などに関わる現代の諸課題について理解していると同時に諸資料から、様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめている。	現代の諸課題について、事実を基に概念などを活用して多面的に考察したり、解決に向けて公正に判断したり、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論している。	国家及び社会の形成者として、よりよい社会の実現を視野に現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。
北高力	①基礎力 ②情報処理力 ③試行力	④問題解決力 ⑤発見力 ⑥創造力	⑦人間関係形成力 ⑧実践力 ⑨自律的活動力
評価方法	定期考査・北高検定・単元テストで評価する。	課題や授業プリント、授業中の発問に対する応答で評価する。	授業プリントや授業中の発言自己評価などから、総合的に判断する。

■学習計画

	学習内容	授業の展開方法	使用教材
前期	第1章 社会の中の私たち 第2章 思想から学ぶべきもの 第3章 私たちの社会の基本原則	小テストで定着度をはかる 単元ごとに自己評価	『公共』（帝国書院） 自作プリント Googleのアプリを使用 Microsoftのアプリを使用 タブレット端末
後期	第1章 私たちと法 第2章 私たちと政治 第3章 私たちと経済		

■どのように評価されるか、学習のアドバイス

- ・世の中で起こる出来事について、新聞やニュース、インターネットを使って身近なものにしておくこと。また、公共の授業内容と関連づけて考えることができること。
- ・主体的に授業に参加し、疑問に思ったことをタブレット端末などを使い、調べようとする態度を持つこと。
- ・授業で提示した教科書のグラフやコラム、ノートやプリント、タブレット端末を見返すなど復習を習慣づけること。

令和5年度 地理総合 シラバス

科目	地理総合	単位数	2 単位
対象	部・年次	1・2・3 部	2 年次

目標 地理的な見方・考え方を働かせ、多様な異文化への理解や、様々な地球的課題に立ち向かうために必要な知識・技能を身につける。

■身につける資質・能力と、到達レベル

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	選択・判断の手掛かりとなる概念や理論、地球環境、資源・エネルギー、人口、食糧など現代の諸課題について理解しているとともに、諸資料から様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめている。	現代の諸課題について、事実を基に概念などを活用して多面的に考察したり、解決に向けて公正に判断したり、異文化理解や日本の豊かな自然を視野に入れながら構想したことを議論している。	国家及び社会の形成者として、よりよい社会の実現を視野に現代の地球的諸課題を主体的に解決しようとしている。
北高力	①基礎力 ②情報処理力 ③試行力	④問題解決力 ⑤発見力 ⑥創造力	⑦人間関係形成力 ⑧実践力 ⑨自律的活動力
評価方法	定期考査・北高検定・単元テストで評価する。	課題や授業プリント、授業中の発問に対する応答で評価する。	授業プリントや授業中の発言自己評価などから、総合的に判断する。

■学習計画

	学習内容	授業の展開方法	使用教材
前期	第1部 地図でとらえる現代世界 第2部 国際理解と国際協力	小テストで定着度をはかる 単元ごとに自己評価	『高等学校 新地理総合』(帝国書院) 『新詳高等地図』(帝国書院) 自作プリント Googleのアプリを使用 Microsoftのアプリを使用 タブレット端末
後期	第3部 持続可能な地域づくりと私たち		

■どのように評価されるか、学習のアドバイス

- ・地球環境問題、資源・エネルギー問題、人口問題などについて新聞やニュース、インターネットを使って身近なものにしておくこと。また、地理総合の授業内容と関連づけて考えることができること。
- ・主体的に授業に参加し、疑問に思ったことをタブレット端末などを使い、調べようとする態度を持つこと。
- ・授業で提示した教科書のグラフやコラム、ノートやプリント、タブレット端末を見返すなど復習を習慣づけること。

令和5年度 地域社会と防災① シラバス

科目	地域社会と防災①	単位数	1 単位
対象	部・年次	1, 2 部	全年次

- 目標**
- ・災害発生の想定や過去の事例研究から、社会的な見方・考え方を養う。
 - ・「楽しく防災を学べる」企画活動を通して、情報を効果的に活用する力を身に付ける。

■身につける資質・能力と、到達レベル

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	過去の被害と復興など、災害についての基礎的な知識と避難行動について理解する。防災グッズの工作或や消火器等の扱いなど、災害発生時に活かせる技能を身に付ける。	過去の災害事例研究から、課題を発見し、自分たちが何をするべきか、後世にいかにつないでいくかを考え、発信する。地域の子どもたちにもわかりやすい、「楽しく防災を学べる」企画や運営をする。	学んだ知識や身に付けた技能を活用・応用しようとする。積極的に課題や疑問を発見し、その解決に取り組もうとする。自分の得た知識・技能を身の回りや地域に発信しようとする。
北高力	①基礎力 ②情報処理力 ③試行力	④問題解決力 ⑤発見力 ⑥創造力	⑦人間関係形成力 ⑧実践力 ⑨自律的活動力
評価方法	授業プリントやレポート課題、実技演習などから総合的に評価する。	授業プリント、レポート課題授業中の発言等で総合的に評価する。	授業プリントやレポート課題、自己評価などから、総合的に判断する。

■学習計画

	学習内容	授業の展開方法	使用教材
前期	単元1 身近におこる災害 単元2 避難生活の課題	ペアやグループでの話し合い活動 単元ごとの自己評価 実技演習	自作プリント タブレット端末 Google関連のアプリ Microsoft関連のアプリ
後期	単元3 「楽しい防災訓練」をデザインしよう 単元4 まとめレポート		

■どのように評価されるか、学習のアドバイス

- ・災害や防災活動について、新聞やニュース、インターネットを使って身近なものにしておくこと。また、自分の身の回りに関連づけて考えることができること。
- ・主体的に授業に参加し、疑問に思ったことを調べようとする態度を持つこと。
- ・授業で提示した資料やプリントやメモ、タブレット端末を見返すなど復習を習慣づけること。

令和5年度 地域社会と防災② シラバス

科目	地域社会と防災②	単位数	2 単位
対象	部・年次	3 部	全年次

- 目標**
- ・災害発生の想定や過去の事例研究から、社会的な見方・考え方を養う。
 - ・地域の魅力を追求・発信する活動を通して、情報を効果的に活用する力を身に付ける。

■身につける資質・能力と、到達レベル

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	災害についての基礎的な知識と避難行動について理解する。防災グッズの工作や災害備蓄の知識など、災害発生時に活かせる技能を身に付ける。兵庫県や西脇市の地域性、魅力ある特産を知る。	過去の災害事例研究から、課題を発見し、自分たちが何をするべきか、後世にいかにつないでいくかを考え、発信する。綿の栽培や観察を通して地場産業の魅力を知り、発信する。	学んだ知識や身に付けた技能を活用・応用しようとする。積極的に課題や疑問を発見し、その解決に取り組もうとする。自分の得た知識・技能を身の回りや地域に発信しようとする。
北高力	①基礎力 ②情報処理力 ③試行力	④問題解決力 ⑤発見力 ⑥創造力	⑦人間関係形成力 ⑧実践力 ⑨自律的活動力
評価方法	授業プリントやレポート課題、実技演習などから総合的に評価する。	授業プリント、レポート課題授業中の発言等で総合的に評価する。	授業プリントやレポート課題、自己評価などから、総合的に判断する。

■学習計画

	学習内容	授業の展開方法	使用教材
前期	単元1 身近に起こる災害 単元2 避難生活の課題 単元3 ひょうごの中の西脇市	ペアやグループでの話し合い活動 単元ごとの自己評価 実技演習	自作プリント タブレット端末 Google関連のアプリ Microsoft関連のアプリ
後期	単元4 「楽しい防災訓練」をデザインしよう 単元5 まとめレポート		

■どのように評価されるか、学習のアドバイス

- ・防災活動や地域社会について、新聞やニュース、インターネットを使って身近なものにしておくこと。また、自分の身の回りに関連づけて考えることができること。
- ・主体的に授業に参加し、疑問に思ったことを調べようとする態度を持つこと。
- ・授業で提示した資料やプリントやメモ、タブレット端末を見返すなど復習を習慣づけること。

令和5年度 日本文化入門 シラバス

科目	日本文化入門	単位数	1 単位
		対象 部・年次	1・2 部自由選択 / 後期入学生

目標 日本の伝統や文化についての理解を深め、担い手としての自覚を養いつつ、グローバル化が進展する社会で主体的に生きる人材となるために必要な資質・能力を育成することを目指す。

■身につける資質・能力と、到達レベル

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	日本の伝統や文化について、風土や時代背景と関連付けながら理解する。 日本の伝統や文化についての諸資料を収集、選択、活用し、外部に発信する技能を身に付ける。	時代や地域による比較や分類をしたり、複数の資料を関連付けて考察したりすることで日本の伝統や文化の特徴を明らかにし、それを表現しようとしている。	グローバル化が進展する社会にあって、日本の伝統や文化の担い手としての自覚を持ちつつ、異文化を尊重する姿勢を身に付ける。
北高力	①基礎力 ②情報処理力 ③試行力	④問題解決力 ⑤発見力 ⑥創造力	⑦人間関係形成力 ⑧実践力 ⑨自律的活動力
評価方法	小テスト レポート作成、発表 定期考査	発表 単元末まとめ 定期考査	単元末まとめ 課題への取組状況及び成果

■学習計画

	学習内容	授業の展開方法	使用教材
前期	単元1 日本の自然と生活 単元2 日本の伝統的な食文化 単元3 伝統と礼儀作法	①基礎となる知識を学ぶ。 ②学んだことを深めるために、自分で調べたり、意見をまとめたり、意見交換をしたりする。 ③考えたことをスライドやポスターにまとめ発表する（単元末にまとめの課題あり）。	授業者自作プリント Google Classroom
後期	単元4 現代につながる日本文化 単元5 世界に発信する日本文化	④知識・技能と思考・判断・表現の観点の評価するために定期考査を実施する。	

■どのように評価されるか、学習のアドバイス

失敗をおそれず、考えたことを発表したり、書いたりしてください。
考えを表現する時は理由もあわせて表現しましょう。
他の人が聞いてわかるような表現になっているか意識してチェックするようにしましょう。